



第2章

高等学校における キャリア教育の 推進のために



第2章

高等学校における キャリア教育の推進のために

第1節 設置形態，学科の特質に応じたキャリア教育の推進

高等学校は、「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すこと」（学校教育法第50条）を目的としている。また、高等学校の教育の目標は、国家・社会の形成者としての必要な資質を養うこと、社会的使命の自覚に基づき進路の決定と専門的知識・技術・技能を習得させること、個性の確立と健全な批判力を養い社会の発展に寄与する態度を養うこと（学校教育法第51条）とされている。

今日、急速な社会の変化の中で、高校生を取り巻く環境は大きく変化している。特に、経済のグローバル化や知識基盤社会の到来、就業構造・雇用慣行の変化等により、教育、雇用・労働を巡る様々な課題が見受けられる。

このような中で、上記の目的及び目標を達成するためには、生徒一人一人が「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観・職業観を形成・確立し、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが必要である。とりわけ、高等学校では、小学校・中学校段階からの継続性の中で、生徒一人一人の発達の段階に応じた様々な教育活動を通じ、心身の発達を図るとともに、個性や能力に応じた教育を施すことが大切である。そして、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進することが求められている。

1 高等学校の設置形態と学科の種類

高等学校の設置形態は、大きく全日制課程、定時制課程、通信制課程の3つの課程に分けられる。全日制課程は、修業年限が3年と定められ、1日を通して授業を行う課程である。平成22年度の学校基本調査によると、高等学校に在籍する生徒のうち約96.5%が全日制課程の生徒である。定時制課程は、修業年限が3年以上とされ、夜間その他特別の時間（午前部・午後部といった昼間部を置く学校もある）又は時期において授業を行う課程である。通信制課程は、定時制課程と同じく修業年限が3年以上であり、添削指導、面接指導、放送など多様な手段によって教育が行われる課程である。定時制課程及び通信制課程は、働きながら学ぶことを希望する者に高等学校教育を受ける機会を保障するために設けられたが、近年では、様々な理由によって全日制課程を選択しない若者などの学びの場としての多様性も持ち合わせている。

高等学校の学科は、高等学校設置基準において、①普通教育を主とする学科（普通科）、②専門教育を主とする学科（専門学科）、③普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科（総合学科）の3つに分けられる（高等学校設置基準第5条）。②では、下表のように15の学科が示されている（高等学校設置基準第6条）。

	大学科名	主な小学科名（例）		大学科名	主な小学科名（例）
1	農 業	生物生産，食品化学 など	9	理 数	理数，自然科学 など
2	工 業	機械，電気，土木 など	10	体 育	体育，スポーツ科学 など
3	商 業	商業，会計，情報 など	11	音 楽	音楽，声楽，器楽 など
4	水 産	海洋生産，海洋技術 など	12	美 術	美術，美術工芸 など
5	家 庭	調理，服飾デザイン など	13	外国語	英語，外国語 など
6	看 護	看護，衛生看護 など	14	国際関係	国際，国際教養
7	情 報	情報，情報システム など	15	そ の 他	専門教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科
8	福 祉	福祉，社会福祉 など			

なお、現在の3つの学科の生徒数の割合は、普通科が70%を超え、専門学科が約23%（職業に関する学科については約20%）、総合学科が約5%となっている。

2 学科ごとに見られるキャリア教育の課題

(1) 普通科

普通科では、卒業者のうち約8割が大学や専門学校等の高等教育機関へ進学している。しかし、進学希望者の中には、将来の生き方・働き方について考え、選択・決定することを先送りする傾向が強く、進学を希望する理由も、「すぐに社会に出るのが不安」「自由な時間を得たい」「周囲の人がみな行く」など、進路意識や目的意識が希薄なままに進学している者が少なくないという指摘もある。

一方、普通科から就職を希望する者は、専門学科や総合学科に比べて就職状況は厳しい傾向が見られる。また、普通科を卒業した者は、専門学科などを卒業した者よりも正社員になる比率が低いという調査結果もある。

普通科においては、将来を展望させ、そのために必要な能力や態度を身に付けさせる指導、とりわけ、進学する意義を明確にすることや将来の職業生活に向けた基礎的な知識・技能に関する学習の機会の設定・充実が課題である。

(2) 専門学科

専門学科では、それぞれの学科の特色を生かした専門教育が行われており、職業に関する専門学科（以下「職業学科」とする）においては、以前は卒業者の多くが専門知識・技能を生かした分野に就職していた。しかし、近年では、専門学科を卒業して就職する者の割合は4割程度で推移している。社会の急速な変化により、職業人として必要とされる専門的な知識や技能が拡大・高度化していることなどにより、産業社会が求めている知識・技能と専門学科での学習内容との間に乖離が生じているといった指摘がある。

一方、専門学科から大学や専門学校等に進学する割合は年々増加する傾向にあるが、中には高等学校での専門分野とは関連の薄い学部や学科等への進学も見られる。

専門学科、特に職業学科においては、職業の多様化や職業人として求められる知識・技術の高度化に対応した職業教育の充実及び高等教育との接続も視野に入れた将来設計のための指導の充実が課題である。

(3) 総合学科

総合学科では、生徒の主体的な科目選択による学習や、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習の機会などが他の学科に比べて多い。しかし、「生徒が目的意識や将来の進路への自覚を持っていないため、主体的な科目選択を行わせることが難しい（安易な科目選択を行う傾向にある）」といった課題を挙げる学校が多数ある。また、生徒にも「自分の進路について学び、じっくり考えることができる」と考えている者が多く見られる一方で、総合学科に満足している点として「進路等に目的を持つことができる」ことを挙げる者は少ないといった矛盾も見られる。

総合学科においても、幅広い「基礎的・汎用的能力」の育成が求められているが、とりわけ卒業後の進路選択を視野に入れた科目の選択能力の向上や長期的な視点に立ったキャリアプランニング能力の育成が課題である。

3 学科ごとのキャリア教育の推進

(1) 普通科

高等学校において、職業を意識した時期が早いほど、大学等への進学理由や将来の目標を明確に持ち、将来の社会での姿を思い描いている傾向があるという調査もある。高等教育機関への進学を希望する者が多い普通科においても、現実的に社会・職業の理解を深めることや、自分が将来どのように社会に参画していくかを考える教育活動等を指導計画に位置付けて実施するなど、キャリア教育を充実していくことが必要である。

普通科におけるキャリア教育の推進のポイントは次のとおりである。

- ・ 進学希望者が多い普通科においては、「大学の向こうにある社会」を意識させ、学校の学習内容と将来の職業分野との関連を考察させるような授業展開を図る。
- ・ 就職希望者が多い普通科においては、職業科目の履修の機会を確保するとともに、できるだけ早い段階からある程度まとまった単位数を配当するなど、将来の職業生活に向けて体系的・系統的に学習できるような教育課程を編成し、就業体験など啓発的な体験を伴う取組を充実させる。

(2) 専門学科

専門学科、特に職業学科は、職業人として必要とされる専門的な知識・技能の高度化に対応する人材の育成が求められる一方、地域の様々な産業・社会を担う人材を輩出する観点からは、業務を確実に遂行していくことができる能力を高めることが求められている。職業教育のスタート段階である高等学校では、将来のスペシャリストへの道を視野に、その基礎的・基本的な知識・技能を確実に養うとともに、地域や産業界との連携を図った職業教育が必要である。このような職業教育を通して、社会的・職業的自立に向けて必要な「基礎的・汎用的能力」を育て、一人一人のキャリア発達を促すことが求められる。

また、理数や芸術、体育や外国語などに関する学科については、普通教育よりも高度で専門的な内容を取り扱うことから、進路希望も限定的になりがちである。しかし、卒業時点でこれらの専門分野の職業に就くことは難しい場合も予想されることから、将来の職業との関連を幅広く捉えるような指導が求められる。その際、大学や研究機関での啓発的な体験や、専門分野に関わる就業場所での体験などを通して、現在学習している内容との関連や卒業後の進路について、具体的に考察する機会を設けることが必要である。

専門学科におけるキャリア教育の推進のポイントは次のとおりである。

- ・ 各専門科目の基礎的な科目（「農業と環境」「工業技術基礎」「ビジネス基礎」など）から、各専門科目、「実習」及び「課題研究」などにいたるまでの学習の流れとキャリア教育を関連付けたグランドデザインを作成・提示し、指導に生かす。
- ・ 地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域・社会との連携を図り、体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習などを通じて、実践的な教育活動に取り組む。
- ・ 外部講師などの積極的な活用を図り、最先端の知識・技能を習得する機会を設ける。

(3) 総合学科

総合学科では、全ての生徒に原則として入学年次に履修させる「産業社会と人間」が、キャリア教育の実践の中心的な役割を担っている。この学習を通じて、地域や産業界等との積極的な連携を図り、生徒が多様な他者との関わりの中で自己の将来の生き方や進路について考察し、興味・関心の所在と職業との関連を深めることが大切である。

総合学科におけるキャリア教育の推進のポイントは次のとおりである。

- ・ 「産業社会と人間」の学習による動機付けを基に、3年間の綿密な学習計画を立案し実行する。
- ・ 多様な必修教科・科目や選択教科・科目の履修を通じて様々な知識・技能を養い、総合的な学習の時間などにおいて、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を養う。

4 学科の特質に応じて育成すべき「基礎的・汎用的能力」

高等学校段階のキャリア・発達課題は、「自己理解の深化と自己受容」「選択基準としての勤労観、職業観の確立」「将来設計の立案と社会的移行の準備」「進路の現実吟味と試行的参加」とされている。社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校でのキャリア教育を充実させることは、喫緊の課題である。したがって、高等学校においては、社会的・職業的自立に必要な「基礎的・汎用的能力」を育成するために、各学科の特色に応じた取組が必要となる。各学科において「基礎的・汎用的能力」を育むためには、次のような視点が考えられる。

すべての学科に共通して育成すべき力の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど	自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付けや忍耐力、ストレスマネジメント、主体的な行動力など	情報の理解・選択・処理、本質の理解、原因の追求、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択・行動と改善など

学科の特質に応じた育成の視点の一例

学科	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
普通科	ホームルームでの話し合い活動などを通じて、相互理解を図るとともに、協力して物事に取り組み意識・態度を養う。	社会人講話や就業体験などの啓発的な体験を通じて、自己の適性等を知り、主体的に行動し、自ら進んで学ぼうとする力を育成する。	具体的な課題を設定して行うディベートなどの学習を通じて、課題の本質を理解し、その課題を解決することができる力を育成する。	「大学の向こうにある社会」を認識し、将来の職業を意識して、計画的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。
専門学科	実習などの体験的な学習を通して、多様な他者の個性を理解するとともに、協力・協働していく力を育成する。	専門的な学習と産業や職業との関連を知ることを通じて、自らの役割を理解し、主体的に行動していく力を育成する。	「課題研究」や「総合的な学習の時間」などの学習を通じて、様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立て、その課題を解決することができる力を育成する。	将来の社会生活・職業生活に必要な力を理解するとともに、卒業後も継続して職業資格の取得などに取り組む態度を育成する。
総合学科	「産業社会と人間」での学習を通じて、多様な他者との関わりの中で、円滑な人間関係などを形成する。	職業人インタビューや就業体験など啓発的な体験活動を通じて、職業の実際や自分の適性等を知り、自己の興味・関心の所在や適性等を知る。	「総合的な学習の時間」などにおいて、課題解決のための道筋を立て、多様な他者の協力を得て課題解決を図る力を育成する。	3年間の履修計画を作成し、自分の興味・関心や将来と結び付いた学習計画を立案する。様々な産業の種類や内容、課題などについて理解し、興味・関心をもつ。